Tulips R
University of Tsukuba Repository

読むJ600教材の最適化を目指して ： アンケート調査結果の報告

著者	高橋 純子, 鄭 聖美
雑誌名	筑波大学留学生センター日本語教育論集
号	29
ページ	189-206
発行年	2014-02
その他のタイトル	A Report on an Intermediate Japanese Reading Class : focused on the learners' needs
URL	http://hdl.handle.net/2241/121158

読むJ600教材の最適化を目指して

—アンケート調査結果の報告—

高橋　純子　　鄭　聖美

要　旨

2012年度1学期、2学期において、使用読解教材と授業での学習活動についてアンケート調査を行った。2学期、3学期において、学習者の読み方に関するアンケート調査を行った。本稿はこの2つのアンケートの回答を集計、分析したものである。その結果、使用した読解教材、及び小グループでの話し合い、小テストなど授業での活動に対する受講生の肯定的評価がわかった。読解において困難と感じている要因として、ほとんどの受講生が「語彙と文法の知識」「背景知識の有無」をあげていた。授業で読みたい読み物として、「新しい単語や表現がたくさん学べるもの」という回答が最も多かった。J600中級学習者は語彙の知識が足りないと感じており、それを増やしたいと考えている。また、漢字圏と非漢字圏の学習者における読み方の傾向に違いが見られた。

【キーワード】読み方調査　教材および授業活動評価　読解の困難点

A Report on an Intermediate Japanese Reading Class : focused on the learners' needs

TAKAHASHI Junko, JUNG Sungmi

【Abstract】This paper reports on the results of two surveys : an evaluation of the reading materials and class activities conducted in the first and second term, and a survey regarding reading strategies in the second and third term in 2012. The learners showed their interests in the reading materials, and found the class activities quite useful. Most of them mentioned that vocabulary and background knowledge were important to understand the texts. They expect reading materials to be full of new vocabulary and expressions. The intermediate learners of J600 feel that they don't have enough vocabulary and are eager to increase them. The learners with kanji backgrounds tended to use top-down reading strategies, while the learners from non-kanji countries tended to rely on the dictionary.

【Keywords】reading strategies, evaluation of reading materials and class activities, difficulties in reading

1．はじめに

2012年度1学期及び2学期において、授業で使用した読み教材、授業での活動に関し、受講生の取り組み、反応を知るために学期の最終週にアンケート調査を行った。このアンケートの目的は、使用した読解教材を受講生はどう捉えていたのかを探り、読解教材選択の参考にしようというものであった。2011年度に使用した教材の一部を差し替えようと考えていたのだが、その読み物「血液型による性格判断」が毎学期、受講生からの評価が高かった。これは、教師側には意外な反応であった。そこで、さらに、2学期と3学期の学期開始時に受講生の読み方、読解の際に困難と感じる点、どのような読み物を授業で取り上げて欲しいと考えているのかを知るためのアンケート調査を行った。この2つのアンケート調査結果を集計、分析し、教師に見えていなかったところはないのか、を探り、学習者の求めるものを知り、それを授業改善に役立てようと考えた。また、2名の教師で3クラスを担当するため、それぞれのクラスの情報交換、均質化を図るためでもあった。本稿が、このレベルの学習者理解を促し、教材と授業活動の適正化を図る一助となることを願う。

2．アンケート調査の実施

2．1　アンケート内容

2種類のアンケート調査を行った。形式は選択肢から答える質問と自由記述を併用した。2つのアンケート調査を以下(1)「読み方調査アンケート」(2)「教材・授業活動評価アンケート」と呼ぶ。（資料1、2）それぞれの目的と概要は次の通りである。

(1)「教材・授業活動評価アンケート」

使用読解教材に関して、1）面白さ、2）難しさ、3）役に立ったかどうか、という項目を3段階で評価し、その理由を自由記述で書くスペースを設けた。さらに、受講生の授業への取り組みを3段階で自己評価し、授業で行ったグループでの読み練習、内容についての話し合い、読解教材毎の小テストについて役に立ったかどうかを3段階で評価し、教材評価同様自由記述のスペースを設けた。

(2)「読み方調査アンケート」

学期開始時にレベルチェックテストと同時に配布し、実施した。その目的は、受講生の読み方の傾向を知るためであると同時に、授業に先立ち、「読む」時の自身の行動を受講生に意識させるためでもある。トップダウンで読んでいく傾向があるのか、ボトムアップで読む習慣があるのか、何が読解で困難な要因と考えているのか、読んでいるうちに分からなくなった時にはどのような対処法をとるのか、読解力を身につけるため実際どのような努力をしているのか、授業でどのような読み物を読みたいか、などの質問を設定した。

2.2　アンケート対象者と回答者数

(1)「教材・授業活動評価アンケート」の対象者と回答者数

読むJ600は3クラス開講された。1学期は3クラス全てでアンケートを行ったが、2学期は2クラスのみで実施した。3学期には、この調査を行わなかった。調査の対象者と回答者数は、以下の表1の通りである。

表1　「教材・授業活動評価アンケート」の対象者と回答者数

	対象者	回答者（計58名）
2012年度-1学期	3クラス、31名：中国16名、ロシア3名、ウクライナ1名、カザフスタン2名、ウズベキスタン2名、韓国1名、シリア1名、イギリス1名、ブラジル1名、アメリカ2名、イラン1名	うち、29名
2012年度-2学期	2クラス、36名：中国14名、台湾4名、ウクライナ1名、カザフスタン3名、ウズベキスタン5名、キルギス1名、カンボジア1名、タジキスタン2名、ロシア2名、ラトビア1名、リトアニア1名、ドイツ1名、ポーランド3名、スペイン1名、インドネシア1名、セルビア1名	うち、29名

(2)「読み方調査アンケート」の対象者と回答者数

1学期にはこの調査を行わなかった。2学期と3学期には、3クラス全てでアンケートを行った。調査の対象者と回答者数は、表2の通りである。

表2　「読み方調査アンケート」の対象者と回答者数

	対象者	回答者（計72名）
2012年度-2学期	3クラス、55名：中国23名、台湾5名、韓国3名、ウクライナ1名、カザフスタン3名、ウズベキスタン5名、キルギス1名、カンボジア1名、タジキスタン2名、ロシア2名、ラトビア1名、リトアニア1名、ドイツ1名、ポーランド3名、スペイン1名、インドネシア1名、セルビア1名	うち、44名
2012年度-3学期	3クラス、36名：中国11名、台湾1名、韓国2名、エジプト2名、ベトナム2名、アメリカ2名、ロシア1名、エストニア1名、インドネシア1名、ウズベキスタン1名、アメリカ1名、トルコ1名、カザフスタン1名、ラトビア1名、チェコ1名、モンゴル1名、ブラジル1名、オーストラリア1名、キルギス1名、メキシコ1名、ルーマニア1名、ポーランド1名	うち、28名

尚、「読み方調査アンケート」の回答者72名の内、漢字圏受講生は計35名で、非漢字圏受講生は37名である。漢字圏受講生は、中国、台湾、韓国人受講生を、非漢字圏受講生はそれ以外の受講生を指す。中国系あるいは韓国系で漢字圏の社会・文化背景を持ち、他の国籍を有する受講生はいなかった。

3．調査結果

教材・授業活動のアンケートを1、2学期に実施し、読み方調査アンケートは2、3学期に実施したが、本稿では読み方調査の結果を踏まえ、受講生の教材評価、授業活動評価の基準を考察していく。よって、読み方調査の結果を先に示す。

3．1　読み方調査の結果

「最初から1行ずつ単語の意味を確かめて読んでいく」（以下逐語的読み方）のか、あるいは、「わからない単語や表現があっても、類推しながら最後まで読んでいく」（類推的読み方）のがいいと考えているのかを問うた。延べ回答数96のうち、61名（約64％）が「類推的読み」を、35名（約37％）が「逐語的読み」を選んだ。両方を選択した受講生が72名中24名いた。そこには、読み物によって読み方が異なるという記述がいくつかあり、専門に関する文章は逐語的に、小説などは類推しながら読み進める、というものであった。

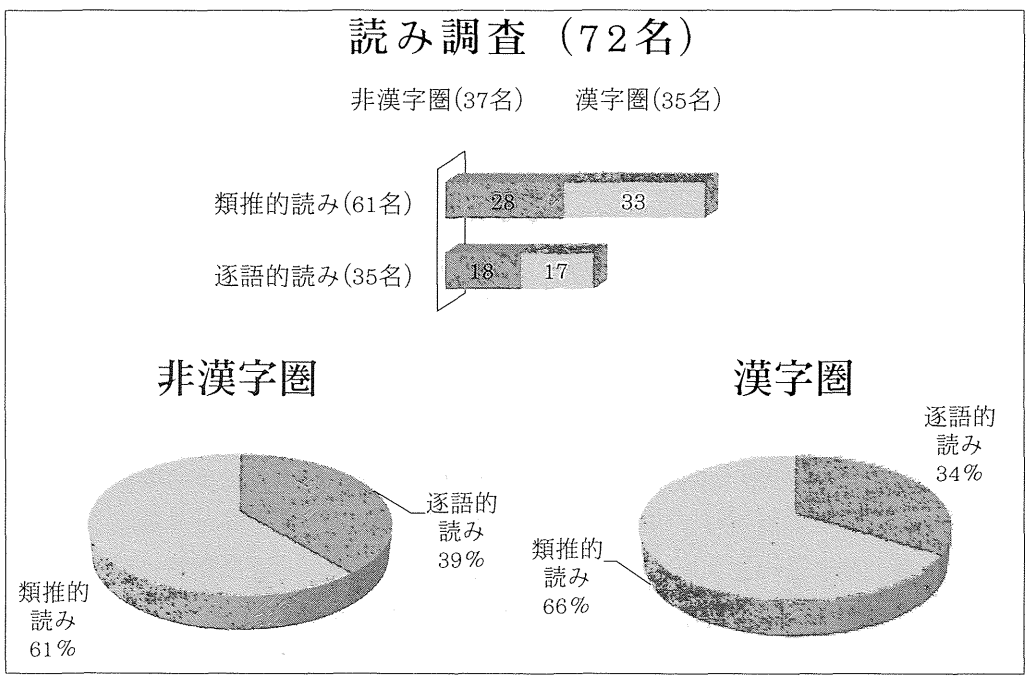


図1　読み方の傾向

非漢字圏学習者と漢字圏学習者の読み方の傾向を見ると、非漢字圏受講生は約61％が、漢字圏受講生は66％が類推的読みを選んだ。漢字圏受講生の方が「類推的読み」を選んだ割合、非漢字圏受講生が逐語的読みを選んだ割合がそれぞれやや高かった。漢字圏受講生は漢字語彙を追って、大体の文章理解をしようとし「類推的読み」を選ぶ率が高かったと考える。一方、非漢字圏受講生は、後述する読解の困難点として「漢字がわからない」と挙げているように漢字語彙を始め言葉の意味を調べることを「いつもそうしている」ようだ。

表３　読み方の選択理由

逐語的読み	非漢字圏	漢字圏	計	類推的読み	非漢字圏	漢字圏	計
安心できる	1	5	6	早くだいたいの内容が理解できる	19	18	37
わかりやすい	15	10	25	読むことが大変ではなくなる	3	5	8
いつもそうしている	4	2	6	いつもそうしている	7	8	15
その他	0	2	2	その他	2	2	4

類推的読みの選択理由は、両者とも「早く大体の内容を理解できる」が一番多く、漢字圏と非漢字圏受講生の差は見えなかった。一方、逐語的読みの選択理由は、両者とも「わかりやすい」が一番多い。

プレースメントテストを経て、適正レベルに配置されているはずの受講生である。そして教師も受講生のレベルにあった教材を選択しているので、単語や文型を暗号解読のように一つ一つ調べなければ理解できないような教材は選択していないと考える。受講生が「逐語的読み」をどう解釈しているのかは、検討が必要だ。

3．2　読解における困難点

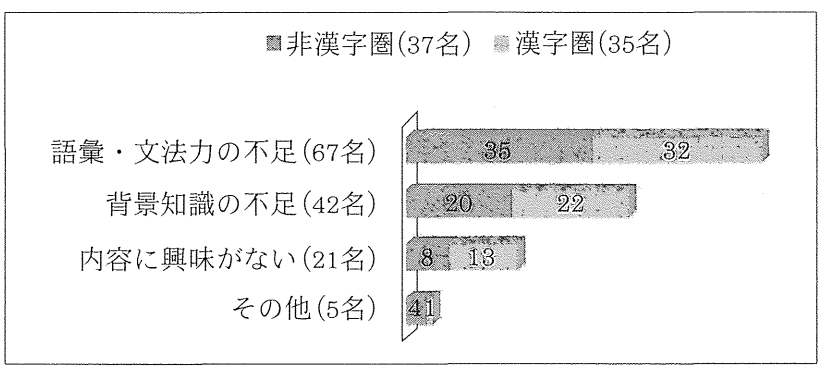


図２　読解における困難点

表４　非漢字圏と漢字圏の読解における困難点

非漢字圏（37名）	割合	漢字圏（35名）	割合
語彙・文法知識の不足（35名）	95％	語彙・文法知識の不足（32名）	91％
背景知識の不足（20名）	54％	背景知識の不足（22名）	63％
内容に興味がない（8名）	22％	内容に興味がない（13名）	34％
その他（4名）	10.8％	その他（1名）	2.6％

読解の困難点として、72名中67名（約93％）が「語彙・文法知識の不足」を、42名（約58％）が「背景知識の不足」を挙げた。漢字圏、非漢字圏受講生ともこの２つを困難点としているようだ。背景的知識を困難とする漢字圏受講生が予想より多かった。日本と文化、歴史的背景を共有するところが多いにもかかわらず、背景知識の不足を困難点としたことは興味深い。

３．３　読んでいて分からなくなった時の対処の仕方

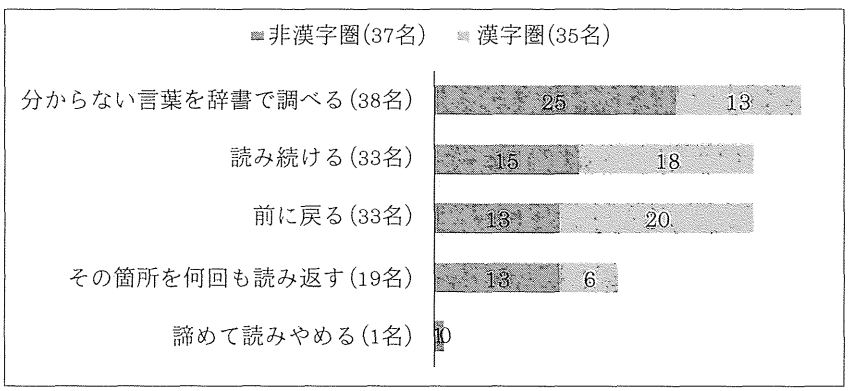


図３　分からなくなった時の対処の仕方

５つの選択肢から２つ選ぶよう指示したが、１つだけ選んだ回答、２つ以上選んだ回答もあった。非漢字圏受講生で１名、諦めて読むのをやめると回答しているが、自分で選んだ読み物について、という但し書きがあった。これは考察の対象から外す。受講生全体の傾向として、わからなくなった時に、辞書で調べるが最も多く53％（72名中38名）であった。

表5　非漢字圏と漢字圏の対処の仕方

非漢字圏（37名）	割合	漢字圏（35名）	割合
辞書で調べる（25名）	68％	前に戻る（20名）	57％
読み続ける（15名）	41％	読み続ける（18名）	51％
前に戻る（13名）	35％	辞書で調べる（13名）	37％
何回も読み返す（13名）	35％	何回も読み返す（6名）	17％
読むのをやめる（1名）	3％	読むのをやめる（0名）	0％

非漢字圏受講生は、「辞書で調べる（68％）＞読み続ける＞前に戻る＞何回も読み返す、と受講生全体の順位と重なる。漢字圏受講生は、前に戻る＞読み続ける＞辞書で調べる（37％）＞何回も読み返す、の順であった。漢字圏受講生は、漢字語彙の意味を調べなくても読み進んでいけるのに対して、非漢字圏受講生が漢字語彙を調べる必要があることを示していると考える。漢字圏受講生の方が効率的な読み方ができると言える。

3．4　授業で読みたい読み物

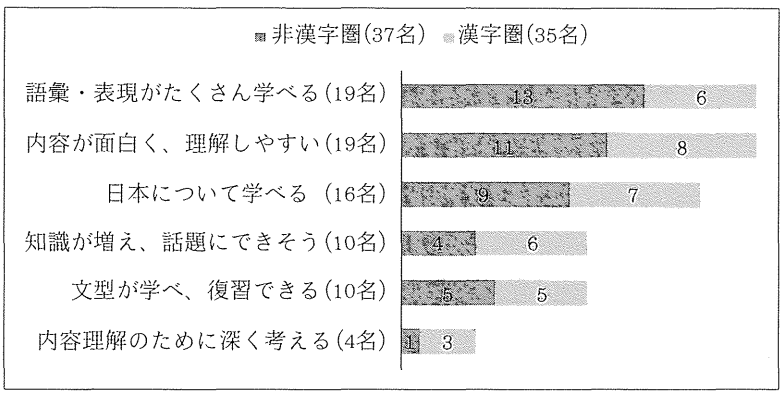


図4　授業で読みたい読み物

表6　非漢字圏と漢字圏の授業で読みたい読み物

非漢字圏（37名）	割合	漢字圏（35名）	割合
語彙・表現がたくさん学べる（13名）	35％	内容が面白く、理解しやすい（8名）	23％
内容が面白く、理解しやすい（11名）	30％	日本について学べる（7名）	20％
日本について学べる（9名）	24％	語彙・表現がたくさん学べる（6名）	17％
文型が学べ、復習できる（5名）	14％	知識が増え、話題にできそう（6名）	17％
知識が増え、話題にできそう（4名）	11％	文型が学べ、復習できる（5名）	14％
理解するために深く考える（1名）	3％	理解するために深く考える（3名）	9％

「語彙・表現がたくさん学べるもの」、「内容が面白く、理解しやすいもの」をそれぞれ19名が選び、最多で、次に「日本について学べる」が16名で多かった。「内容理解のために深く考える」を選んだのは4名で一番少なかった。

「語彙・表現がたくさん学べるもの」と回答した非漢字圏受講生が35％で、漢字圏受講生では20％にとどまった。わからなくなった時の対処の仕方として非漢字圏受講生では「辞書で調べる」という回答が多かった。読解において語彙・表現の不足を漢字圏受講生より切実に感じている結果、そのような知識が得られる読み物を求めているのではないかと考える。

一方、漢字圏受講生は、漢字語彙が類推できるという強みがあり、「知識が増え、話題にできそうな」あるいは「理解するために深く考える」読み物が読みたいと答える余裕があるのではないかと考える。両者とも「内容が面白く理解しやすい」読み物を上位に挙げている。この点は、教師側にとっては参考にすべき点であった。授業で扱う読み物は、難易度の低いものを間に入れるなどの工夫をしながらも、学習者にある程度の負荷をかけた、やや難し目のものを選択していた。「内容が面白く理解しやすい」読み物の多読を通して学習者に読む楽しみ、達成感を与えながら語彙・表現の学習が支援できるような読み物教材選択を試みようと考えている。

3.5　読む力をつけるために必要なもの

この質問は自由記述で答える形式であった。表12は、記述内容が同じものをまとめたものである。

「単語・語彙・表現の知識（72名）」を挙げる受講生が一番多かった。「漢字力（18名）」と合わせると90名になる。次に「文法・文型の知識（32名）」と続くが、これは受講生が読解の困難点として最も多く挙げた回答と一致する。「できるだけ多く読む（25名）」「興味のある内容を読む（17名）」と「本・小説などの長文を読む（16名）」「新聞・雑誌などの記事を読む（15名）」「様々なタイプの文を読む（14名）」「読む練習をする（8名）」「毎日読む（7名）」「繰り返し読む（4名）」「母語あるいは英語で既に読んだ読み物を日本語で読む（2名）」と「読む」ことが必要だという記述は77件にのぼる。そして14番「音声によるインプットをする（5名）」、24番「聞く能力をつける（2名）」、22番「シャドーイング（2名）をする」と19番「音読をする（2名）」も加えると11名が読む力をつけるためには聞く力を始め、他の技能も必要と考えている点は興味深い。「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析」で、孟・小野（2012）で「読む」活動の困難点として「語彙」が、申・酒井（2012）で「聞く」活動の困難点として「スピード」と「語彙」が、許・関崎（2012）で「話す」活動の困難点として「語彙・表現」が、劉・木戸（2012）でも「書く」の困難点として「語彙」が指摘されている。学習者の記述に「日本語のさまざまな書き方を学びたい。「読む」

表7　読む力をつけるために必要だと思うもの

	項目	回答数
01	単語・語彙・表現の知識（深さと広さを含む）を増やす	72名
02	文法・文型の知識を増やす	32名
03	できるだけ多く読む	25名
04	漢字力（音読み、意味、語構成）をつける	18名
05	興味のある内容の読み物（面白いもの・専門書）を読む	17名
06	長文（本・小説）を読む	16名
07	新聞・雑誌などの記事を読む	15名
08	様々なタイプの文を読む	14名
09	読解ストラテジー（読む方法、読むスキル、速読や精読）を学ぶ	9名
10	読む練習（詳細不明）をする	8名
11	毎日読む	7名
12	背景知識（日本の歴史・文化、日本人の考え方、常識など）を得る	7名
13	読破（最後まで読んで、全体内容を理解する）する	5名
14	音声によるインプット（テレビ・アニメ・ニュース・歌などを見る・聞く）	5名
15	日本語授業やその宿題にしっかり取り組む	5名
16	繰り返し読む（教材をもう一度読む、何度も読む）	4名
17	読後活動（要約・まとめ、感想文、話し合い）をする	3名
18	書き言葉になれる、書く能力をつける	3名
19	音読をする	2名
20	論理的な考え方を身につける	2名
21	母語への翻訳版を読む、翻訳する	2名
22	シャドーイング（聞きながら読む、読みながら聞く）をする	2名
23	（母語あるいは英語で既に読んだ）読み物を日本語で読む	2名
24	聞く能力をつける	2名
25	文章全体の構造分析をする	1名

を通じて書く力も上げたい。書き方をマスターするには、「読む」と「書く」が必要です。」（孟・小野2012：316）がある。学習者は語彙を拡充するため、あらゆる方法を駆使しようとしているのではないか。「読む」「聞く」「話す」「書く」という枠を越え、読んで視覚から得た単語を正確に発音してみる、つまり上手に音読ができる。その単語を文脈の中で聞いて理解できる。正しい発音で会話の中で使える。適切な文脈でその単語を使って文章が書ける、という日本語力の全般的向上を目指しているのであろう。実際、「読む」の授業は、読んだものについて要約、感想、意見を言う、書く、学生同士の意見交換では他の学生の話を聞く、あるいは教師の説明を聞く、という活動で成り立っている。

4．教材・授業活動評価の調査結果

4．1　受講生による教材評価

表8の読み教材を使用した。それぞれの教材は以下の特徴を持っている。

表8　2012年度読むJ600の読み教材とその特徴

「血液型による性格判断」（『日本語中級読解』アルクから）	**特徴**：説明文。 新出語彙・表現、慣用句が多く、文章全体の構造を学ぶというよりは、語彙・表現の羅列になっている。4．4で述べた「どのような読み物が読みたいか」という分類では、**「新しい単語や表現がたくさん学べるもの」**および**「何か新しい知識が習得でき、話題にできそうなもの」**に対応する。
「トットちゃん」（『中級からの日本語 読解中心』新典社から）	**特徴**：物語風エッセイ。 比較的読みやすく、平易な話し言葉で書かれている。日常生活で使用するであろう「しゃがむ」「ふんばる」「穴を掘る」「埋める」などの語彙が学べる。**「内容が面白くスムーズに理解できるもの」**に対応する。
「ラナルド・マクドナルドと森山栄之助」（『日本を知ろう』三浦昭・ワット・伊東 泰子著　アルクから）	**特徴**：歴史説明文。 歴史的背景知識が必要な読み物で、漢字語彙が多い。しかし、使用されている文型、構文は平易で、単語の意味を丁寧に調べて読み進めれば、理解できるものである。背景知識として求められるのは、日本が江戸時代鎖国をしていたこと、当時英語ではなく、オランダ語が外交場面で公式言語として採用されていたこと、そして海外では、奴隷貿易が行われており、それに使われた奴隷船に関する背景知識などである。**「日本の文化や日本について何か学べるもの」**に対応する。
「海の祭礼」（吉村昭著からの抜粋（『日本を知ろう』三浦昭・ワット・伊東 泰子著　アルクから）	**特徴**：小説の抜粋。 「ラナルド・マクドナルドと森山栄之助」と関連する読みもので、ラナルド・マクドナルドが森山栄之助と他の通事たちに英語を教える場面の描写である。記述されている文章から、書かれていない情景、心情などを読み取る、いわゆる行間を読むことが求められる。**「日本の文化や日本について何か学べるもの」**および**「内容を理解するために深く考えなければならないもの」**に対応する。

上記の教材について、面白さ、難しさ、役に立ったか、という3つの項目で評価してもらった。回答は3つの項目全てに答えず、面白さのみ評価したものなど、不完全なものもあったが、回答実数を以下の図5に記す。表9には、各教材についての受講生の主な自由記述をまとめた。

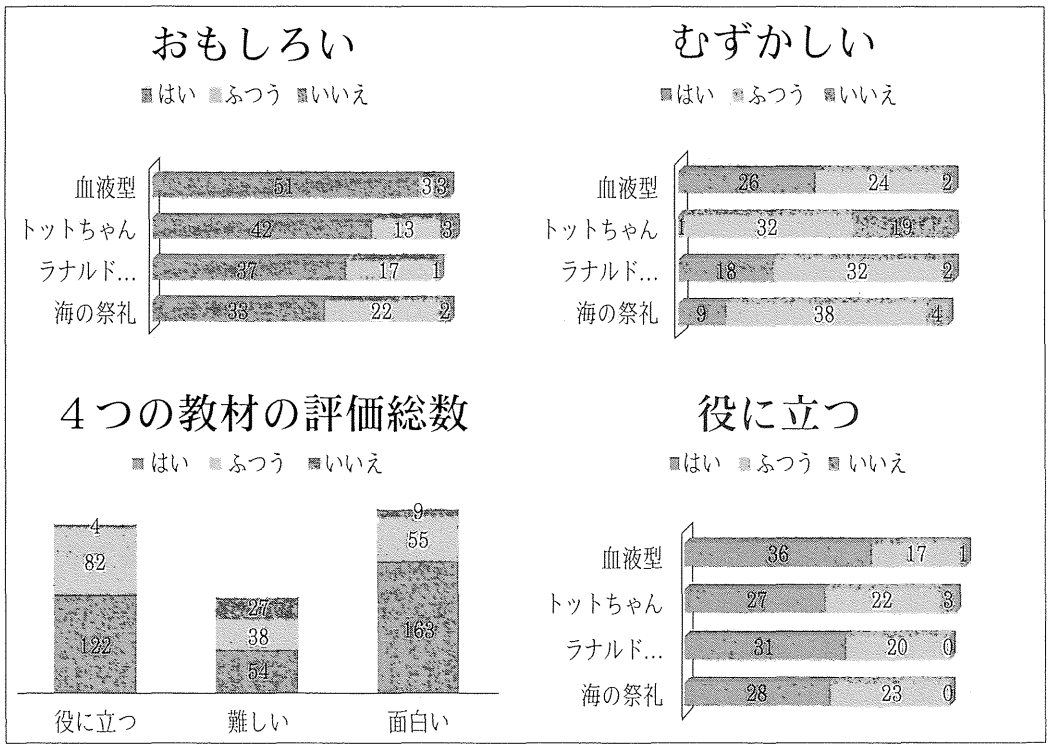


図5　読み教材評価

表9　受講生の各読み教材についてのコメント

「血液型による性格判断」	**面白い**：人間の性格は面白いテーマだ（3名）、血液型によって人の性格が違う、内容について本当かどうか真剣に考えた（2名） **面白くない**：血液型による性格は信じていないから **難しい**：普段使わない語彙が多い（5名）、この授業で一番難しい読み物でした **役に立つ**：新しい語彙や表現が増えた（3名）、この授業で一番効果的なテキストでした、人の性格につての単語と知識が深まった（2名）、人と話すときに役立つ **役に立たない**：人の性格についての話しかない
「トットちゃん」	**面白い**：作家がトットちゃんの気持ちやシーンをよく説明している、ストーリーがおもしろい、テキストに書いていないところについて考えさせる、自分の子供時の似た経験を思い出した（2名）、もし自分がトットちゃんならどうするかと想像しながら読んだ、トットちゃんがお金をどうするかドキドキした **ふつう・簡単だ**：あまり新しい語彙がなかった。読んですぐわかる文章だ **役に立つ**：レベルがちょうどいい、練習問題をやって意見を出す力が上がった、血液型の後に勉強してちょうどよかった、掘る・埋めるなどの動作を表す動詞が勉強できた

「ラナルド・マクドナルドと森山栄之助」	**面白い**：日本の歴史に関係があるから、日本歴史の中でも面白い時代だった、人生について考えさせてくれた（2名） （ふつう・簡単だ）文の構造や語彙がやさしい（2名） （難しい）難しい語彙と文法があった （役に立つ）日本の歴史について知識が増えた、日本の歴史について読んだのは初めてだ
「海の祭礼」	（面白い）マクドナルドの考え方が学べる、新しい言語を習得する過程が面白い、繰り返して読むと毎回新しいのが分かる （簡単だ）語彙や文法がかんたんだ （役に立つ）いろいろ考えさせた

教材全体に関して、「面白い」「役に立つ」という評価が多かった。「血液型による性格判断」は、「面白い」「難しい」「役に立つ」の3項目全てで評価が最も高かった。受講生は、この教材を「新しい単語や表現がたくさん学べるもの」「何か新しい知識が習得でき、話題にできそうなもの」として好んだようである。一方「トットちゃん」は「難しい」「役に立つ」において一番低い評価であった。やさしいので、新たに学ぶ語彙、文法・文型が少なく、「役に立つ」という評価が低かったのではないだろうか。「おもしろい」という評価においては高かった。「ラナルド・マクドナルドと森山栄之助は、「おもしろい」「難しい」「役に立つ」が4つの教材の中でもバランスがいい方と言えるだろうか。「何か日本について学べる」という点で評価されていたようだ。「海の祭礼」については「難しい」とする受講生が予想外に少なかった。教師としては、行間を読む、心情を推測する、など難易度の高い教材だと考えていたが、受講生の評価は異なった。高橋（2013）で指摘したが、ストーリーを追う表面的な読みに留まり、教師が意図したレベルの深い読み方ができていなかったためではないだろうか。「トットちゃん」「海の祭礼」など物語性のあるものは話の筋をたどることができるだけで満足し、「難しい」の評価が下がるのかもしれない。

4.2　受講生による授業活動評価

授業の前に読み物を読んできたか、自分自身の授業への取り組みはどうであったか、グループでの話し合い活動はどうであったか、読み物毎の小テストはどうであったか、と言う質問をした。それぞれ、「どうしてですか」という理由を書くスペースを設けた。その集計結果を表10から表13にまとめた。

表10　授業前に読み物を読んできた

いつも	29名	・知らない漢字・単語があるから、準備しないと大変だから（4名） ・授業の前に予習したら、授業でよく理解できる（8名） ・クラスメートと意見交換をするため（3名）
時々	25名	・真面目な学生ではないので、予習不足だった（2名） ・言葉が難しく、文法が複雑でわかりにくい（3名） ・（専門の）勉強が忙しくて（4名） ・授業で読むからと思って読まなかった（1名）
全然	1名	

55名の回答者のうち、「いつも読んできた（約53％）」が半数以上、「時々読んできた（約45％）も半数近くいた。受講生は真面目に取り組んでいたと言える。いつも読んでくる理由は、漢字力や語彙力の不足を補うため、授業でよく理解するため、グループ活動での意見交換をするため、と意欲的に授業に取り組む姿が見られた。時々読んでくると答えた受講生は、専門の勉強のため時間不足だった、語彙力や文法力不足のため１人で予習するのが困難だったことを理由とする記述があった。自力で予習ができない受講生を支援する方法を考える必要がありそうだ。

表11　授業への取り組みの自己評価

とてもよく勉強した	15名	・宿題を完成した、難しい言葉と漢字も調べた（3名） ・日本語力を伸ばしたいから（2名） ・読む力は日本語の上達に大切な能力だ（1名） ・自分のことだから当然だ（1名） ・いつもそうしている（1名）
ふつう	36名	・入試のため、時間がとれなかった（2名） ・（研究、他の授業、仕事、入試で）時間がなかった（5名） ・内容はあまり難しくないから（2名） ・読み物を授業前ちゃんと読んでいなかった ・勉強したけど成績がよくないから一生懸命とは言えません ・単語を調べて、宿題をやった以外はあまりしませんでした（1名）
あまり勉強しなかった	3名	

授業への取り組みの自己評価は、回答者の約66％（36/54名）が「ふつう」と答えた。「宿題を完成し、漢字も調べた」ので「とてもよく勉強した」という回答と「単語を調べて、宿題をやった以外はあまりしなかった」ので「ふつう」と評価した回答があったが、授業での受講生観察から、受講生は毎回予習し、授業に臨むのが「よく勉強する」態度と認識していると思われる。

表12　グループでの話し合い

役に立った	42名	・意見交換をしながら、内容理解が深まる（9名） ・間違ったところ（漢字の読み方、発音なども）に気が付く（7名） ・話す練習ができる（1名）
あまり役に立たなかった	5名	・みんなで読んで分からないところを先生とチェックするほうがよく分かる（2名） ・学生は内容理解と文法が上手ではないので、グループで読む時間を短くして、先生が説明した方がいい（1名）
1人で読んだ方がいい	7名	・一人でゆっくり読んだ方が良くわかる（1名） ・集中できる（2名） ・他の人の意見には興味がない（1名） ・学生同士の話が合わない（1名）

グループ活動については、回答者の約76％（42/54名）が「役に立った」と答えた。グループでの意見交換が内容理解に役立ったとする記述もある一方で、漢字の読み方、言葉の意味を教えてもらえるという理由で役に立ったという記述もある。予習をしていない受講生がグループ学習を辞書代わりに役立てている面もありそうだ。1人で読んだ方がいいと答えた受講生の中には、予習してきていないので、グループでの話し合いに参加できない、という事情があるのではないだろうか。学生同士では日本語が未熟なため、話が合わない、教師が説明した方が楽に早く分かる、という記述もあった。受講生の発話力、聞き取り能力が効果的なグループ活動に関係していると言える。

表13　小テスト

役に立った	43名	・復習に役に立った（14名） ・語彙・表現を覚える機会となった（5名） ・期末テストの準備ができる（1名） ・読み物をもっと深く理解できる（2名） ・自分の理解が正しいかどうかわかる（2名） ・テストがないとやる気がない（2名）
あまり役に立たなかった	9名	・授業でやったこととあまり変わらない（1名） ・時間があったらやってもいいが、もっといろいろな文章を読みたい（1名） ・よく使う言葉が少ない（1名）
ない方がよい	0名	

小テストの内容は、各読み物で使われている主要な漢字語彙の読み方、表現、慣用句などの使い方を問うものである。「授業でやったこととあまり変わらない」というコメントがあるが、まさにその通りで、授業に出席して、よく理解していれば、小テストはあまり

役に立たないのかもしれない。しかし、回答者の83％（43/52名）が「役に立った」と答えていた。その理由としては、「復習に役に立った」とするコメントが多く、次に「語彙・表現を覚える機会となった」と言うコメントが続く。受講生が読解の困難点として「語彙・文法」、また、読む力をつけるためには何が必要かでは、「単語・語彙・表現の知識（深さと広さを含む）を増やす」という回答が一番多かった。小テストは、この点において受講生の学習意欲を促したと言えるのではないだろうか。

5．調査結果から見えたもの

読み方調査と教材・授業評価の２つのアンケートから次のことが見えてきた。

・漢字圏、非漢字圏受講生ともに「類推的読み」の方を「逐語的読み」より多く採用している。その理由は、両者とも「早く大体の内容を理解できる」からだとしている。
・漢字圏受講生の方が「類推的読み」を採用している傾向が非漢字圏受講生より高い。漢字圏受講生は漢字語彙を追って、大体の文章理解をしようとし「類推的読み」を選ぶ率が高かったと考える。わからなくなった時の対処でも、辞書で調べるより、問題箇所の前後を読み返したりして、推測しようという姿勢が見られた。
・非漢字圏受講生の方が「逐語的読み」を選んだ割合が漢字圏受講生よりも高い。非漢字圏受講生は、漢字語彙を始め辞書で言葉の意味を調べることにたよる傾向がある。
・漢字圏、非漢字圏受講生とも読解の困難点として、「語彙・文法力の不足」を挙げ、読む力をつけるためには「語彙・表現の知識を増やす」を挙げている。
・授業で読みたいものとして「語彙・表現がたくさん学べるもの」、「内容が面白く、理解しやすいもの」が求められていた。その結果、読み教材の「血液型による性格判断」「トットちゃん」の人気が高かった。
・受講生は、小テストは語彙・表現の拡充、定着という意味で役に立つと考えている。
・グループ学習を肯定的に捉え、クラスメートとの意見交換は理解を深めると考える受講生が多い。
・効果的なグループ学習には、「話す」「聞く」力が関係しているようだ。
・受講生は概ね授業に意欲的に取り組み、「読む」を通して、「聞く」など他の技能も発展させ、日本語力全般の向上を目指している。

授業では、漢字圏受講生が漢字語彙を追いながら、読み進めて行くという読み方をする傾向が見られ、効率的な読み方をしているようだが、文法的知識の不足から、強引な類推をする、漢字の読み方に正確さが欠けるなども観察された。一方、非漢字圏の受講生では、漢字語彙に弱いということを自覚し、辞書で丁寧に言葉を調べて授業に臨む者は読む力も優れていた。

6．終わりに（今後の課題を兼ねて）

今回のアンケート調査のきっかけは、教師の意に反して、使用した読解教材が受講生に人気があったことであった。教師は、読み物を元に学習者に新たな知識を与え、深く考えさせたり、議論させたり、という活動を授業に取り入れたいと考えていた。一方、受講生は、語彙・表現の拡充を第一に考えていたようだ。

受講生が授業で読みたいと挙げた上位3つは、「語彙・表現がたくさん学べるもの」「内容が面白く、理解しやすいもの」「日本について学べるもの」であった。語彙・表現があまり苦労せず学べて、それらを使えるようにする仕組みを持った読み教材の開発を目指したいと考える。また、読む力をつけるためには「興味のあるものを多く読む」、読むのが困難な理由の一つとしても「興味がない」が挙げられていた。人それぞれ興味は異なるが、学習者が「面白い」と考える内容を今後具体的に探っていきたい。

今回はJ600レベルの学習者を対象としたが、さらにJ600以外のレベルの学習者との比較考察を試みたい。加え、漢字圏、非漢字圏の学習者の読みのプロセスの調査を行い、未知の言葉に遭遇した時の対処の方法、特に辞書の使い方に焦点を当て考察していきたいと考えている。

参考文献

許充瑄・関崎博紀（2012）「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析 ―J500-900「話す」の場合―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：277-288

申貞恩・酒井たか子（2012）「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析 ―J500-900「聞く」の場合―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：289-298

高橋純子（2013）「「読む600」の授業で教師が目指すもの―教材を中心にして―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』28：235-250

孟熙・小野正樹（2012）「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析 ―J500-900「読む」の場合―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：299-317

劉雅静・木戸光子（2012）「筑波大学留学生センターにおける学習者のニーズ分析 ―J500-900「書く」の場合―」『筑波大学留学生センター日本語教育論集』27号：319-332

渡辺時夫（1996）『新しい読みの指導―目的を持ったリーディング』三省堂

資料１　(1)「読み方調査アンケート」(筆者による空行・ルビ削除)

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

次の質問に答えてください。

１．(1)か(2)のどちらかを選んでください。その理由を１つ選んでください。
「その他」を選んだ時は、必ずその理由を書いて下さい。

(1) 読み物を読むときは、必ず最初から１行ずつ単語の意味を確かめて読んでいくのがいいと思う。

理由 1) 安心できる。
2) わかりやすい。
3) いつもそうしている。
4) その他

(2) わからない単語や表現があっても、現在自分の持っている日本語の知識を使って最後まで読んでいく。読みながら、知らない言葉や表現の意味を類推（=to guess）してみる。何が書かれているのか、どんな情報があるのかを探し出すようにするのがいいと思う。

理由 1) 速くだいたいの内容が理解できる。
2) 読むことが大変ではなくなる。
3) いつもそうしている。
4) その他

２．読むのが難しく感じるのはなぜでしょうか。２つ選んでください。「その他」を選んだ場合は、必ず具体的に書いてください。

理由 1) 単語・文法の知識の不足
2) 背景的知識（=background knowledge）の不足
3) 書かれている内容にあまり興味が感じられない。
4) その他

３．読んでいて何か理解できないとき、どうしますか。
(　) 読み続けて、先に行けば分かるかも知れないと思って，読んで行く。
(　) 分からないところを何回も読み返す。
(　) 分からないところより前のところに戻ってもう一度読み返す。
(　) 知らない言葉を辞書で調べる。
(　) あきらめて、読むのをやめる。

４．「読む」力をつけるために何が必要でしょうか。そのためにはどんな練習をしたらいいでしょうか。考えて書いてください。

５．上に書いたことで実際にあなたがやっていることはどれですか。

６．上に書いたことで、今までやっていなかったが、これからやってみようと思うものはどれですか。

７．下の中で授業で一番読みたい「日本語の文章」は何ですか。１つだけ選んでください。
(　) 新しい単語や表現がたくさん学べるもの
(　) 新しい文型がたくさん学べて、習った文型が多く出てくるもの
(　) 内容が面白く、スムーズに理解できるもの
(　) 内容を理解するために深く考えなければならないもの
(　) 日本の文化や日本について何か学べるもの
(　) 何か新しい知識が習得でき、話題にできそうなもの

資料２　(2)「読み方調査アンケート」（筆者による空行・ルビ削除）

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　（書きたくない人は書かなくてもいいです）

1．読む642の感想を聞かせてください。読み物はどうでしたか。

①血液型による性格判断

おもしろかった　ふつう　おもしろくなかった（どこが？）
むずかしかった　ふつう　かんたんだった　（何が？）
役に立った　ふつう　役に立たなかった　（どうして？）
感想：

②トットちゃん

おもしろかった　ふつう　おもしろくなかった（どこが？）
むずかしかった　ふつう　かんたんだった　（何が？）
役に立った　ふつう　役に立たなかった　（どうして？）
感想：

③ラナルド・マクドナルドと森山栄之助

おもしろかった　ふつう　おもしろくなかった（どこが？）
むずかしかった　ふつう　かんたんだった　（何が？）
役に立った　ふつう　役に立たなかった　（どうして？）
感想：

④海の祭礼

おもしろかった　ふつう　おもしろくなかった（どこが？）
むずかしかった　ふつう　かんたんだった　（何が？）
役に立った　ふつう　役に立たなかった　（どうして？）
感想：

⑤川柳

おもしろかった　ふつう　おもしろくなかった（どこが？）
むずかしかった　ふつう　かんたんだった　（何が？）
役に立った　ふつう　役に立たなかった　（どうして？）
感想：

2．授業の前に読み物を読んできましたか。

（　）いつも読んできた。　（　）時々読んできた。（　）全然読んでこなかった。
どうしてですか。

3．グループで読むのはどうでしたか。

（　）役に立った。（　）あまり役に立たなかった。（　）一人で読んだほうがいい。
どうしてですか。

4．小テストはどうでしたか。

（　）役に立った。（　）あまり役に立たなかった。（　）ない方がいい。
どうしてですか。

5．この授業でどのくらい一生懸命勉強しましたか。

（　）とてもよく勉強した。　（　）ふつう　（　）あまり勉強しなかった。
どうしてですか。

6．その他、何でも気がついたことなど書いて下さい。